

平成22年6月20日現在

研究種目：研究活動スタート支援
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21820078
 研究課題名（和文） オスマン帝国末期からトルコ共和国初期のナショナル・ヒストリー形成に関する研究
 研究課題名（英文） The National Historiography in the Late Ottoman Empire and the Early Republic of Turkey
 研究代表者
 小笠原 弘幸 (OGASAWARA HIROYUKI)
 財団法人 政治経済研究所 研究員
 研究者番号：40542626

研究成果の概要（和文）：

オスマン帝国末期からトルコ共和国初期にかけての国民史の形成過程を、前近代の歴史叙述との関係も視野に入れつつ検討した。本研究の結果次の点が明らかとなった。近代のオスマン史家は、前近代の歴史叙述を国民史に取り込もうと試み、とくにオスマン帝国の起源の扱いに腐心した。またトルコ共和国初期に主張された公定歴史学においては、先行研究では反オスマン的な史観であるとされていたのに対し、相対的に妥当な内容で書かれていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

This study focused on the formation of the National Historiography in the Late Ottoman Empire and the Early Republic of Turkey. Modern Ottoman Historians tried to include the old traditions into the new-born National History. It is also found that the Official Historiography of the Republic of Turkey properly treated the Ottoman History in opposition to the results of the former studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	300,000	1,200,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	540,000	2,240,000

研究分野：

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：東洋史、歴史認識、ナショナリズム、トルコ、オスマン帝国

1. 研究開始当初の背景

オスマン帝国は、その建国当初より多民

族・多宗教国家として存在してきた。しかし
 19世紀に入るとヨーロッパで生まれたナシ

ョナリズムの影響を大きくうけ、19世紀後半から、トルコ民族国家として帝国を統合しようとする思想が徐々に発展していく。この潮流は最終的に、トルコ・ナショナリズムを国是とするトルコ共和国の成立（1923年）に結実する。

この時期、歴史叙述の分野においても、ナショナリズムの影響が顕著に見られた。前近代のオスマン帝国の歴史叙述はイスラーム的世界観に基づいたものであったが、トルコ・ナショナリズムの影響下において、トルコ民族を中心とした歴史が著されるようになる。本研究によって行われるオスマン帝国末期およびトルコ共和国初期のナショナル・ヒストリー研究は、当該分野に重要なケース・スタディを提供しうると思われる。通常、ナショナリズムやナショナル・ヒストリー研究は、近代に主眼をおいて検討されている。ナショナリズムは近代的現象であるから、そのアプローチ自体に問題はない。しかしA・スミスが指摘するように、ナショナリズムが発生する基盤には、前近代的要素が少なからず存在している。だがスミスに代表される前近代的要素を重視する立場の研究も、実証的な形で前近代から近代にかけての意識の変遷を詳細に追ったものは乏しい。これは、前近代と近代を両方検討しなくてはならないために、研究者の負担が大きくなるからだと考えられる。オスマン帝国およびトルコ共和国史研究においてもこの傾向は同様であり、前近代史と近代史が分断された形で研究されているのが現状である。これに対し申請者は、これまで前近代における研究に携わり、前近代のオスマン帝国歴史叙述におけるアイデンティティについて明らかにしてきた。申請者の今までの研究成果と、本研究で行われる近代における研究を組み合わせることで、前近代の歴史叙述と近代のナショナ

ル・ヒストリーとの関係を、実証的な形で繋ぐことができると思われる

2. 研究の目的

本研究では、ナショナル・ヒストリーの形成過程における「起源意識」と「世界史認識」の変遷を明らかにすることに焦点を当てる。この二点に着目する理由は、所与の集団が歴史叙述にアイデンティティを求める際、これらが最も重要と見なされる要素といえるからである。

第一に、帝国末期のオスマン人と初期トルコ共和国の人々が、自分たちのルーツを何に求めていたのかを検討する。近代オスマン帝国において「国民の」起源とされたトルコ民族の神話は、前近代において「王家の」起源に過ぎなかったトルコ王族の貴顕の系譜を利用したものであった。本研究では、前近代において狭い範囲の人々によって受容されていた起源言説が、近代においてトルコ民族の起源として再発見され、組み替えられ、そして拡大されてゆく過程を、実証的な手続きを踏みつつ明らかにする。

第二に、「世界史認識」の変遷を検討する。前近代においてはイスラーム的歴史観に基づいていた世界史叙述が、近代においてはトルコ民族主義の影響が顕著となる。しかしそれは、決して単線的な変遷をたどったわけではない。20世紀初頭前後にはイスラーム主義の影響力も強く、「前近代的イスラーム世界史」、「近代的イスラーム世界史」、「トルコ民族主義的世界史」の三つの型がそれぞれ影響し合っていた。本研究では、これらの世界史認識の相互関係と展開を明らかにしてゆく。

3. 研究の方法

本研究における方法の、第一の特色は、上述したように、ナショナル・ヒストリーの前近代から近代への展開過程を追うことであ

る。本研究が企図するような、オスマン朝建国期から滅亡時、そしてトルコ共和国初期までの歴史的アイデンティティの変容を一本の線で繋ぎ議論する研究は、これまで存在しなかった。本発表は、トルコ歴史学大会において口頭発表しており、国際的にも評価を得ることができた。

第二として、対象範囲の史料を徹底的に調査・収集し、実証的な研究を試みる点である。歴史研究においてこれは当然の作法であると思われるかも知れないが、本稿の対象時期は出版点数が非常に多く、これらを網羅的に利用している先行研究は希なのが実情である。申請者は、トルコ共和国留学中および数度の短期滞在時に、19世紀後半から20世紀前半にかけての叙述史料を相当数収集している。

第三に、トルコ現代史や他地域の歴史との比較の視点である。本研究はトルコ共和国初期までを検討対象とする。しかし将来的に時代の下限を延長することで、現在トルコ共和国を揺るがしている「トルコ・ナショナリズムとイスラーム」の対立と相克について、歴史認識の視点から新しい見解を導くことが可能であろう。また時間軸ではなく空間軸においても、本研究の結果を隣接する中東地域（イラン、エジプトなど）や、さらには日本や西洋の事例と比較することにより、「比較ナショナル・ヒストリー論」として発展させる道も開かれている。

4. 研究成果

本研究の成果としては、まず「古典期オスマン帝国における正統の創造—オグズ伝承の分析から—」がある。これによって、本研究テーマの前近代的前提を明らかにすることができた。

「トルコ共和国公定歴史学における「過去」

の再構成—高校用教科書『歴史』（1931年刊）の位置づけ—」では、トルコ共和国初期におけるナショナル・ヒストリーを扱い、公定歴史学におけるオスマン朝史観を明らかにした。

また、「王家の由緒から国民の由緒へ—近代オスマン帝国におけるナショナル・ヒストリー形成の一側面—」は、オスマン朝末期の国民史形成をあつかった。更に本論考は、「由緒」という近世日本史の概念を用いた比較史の試みである『由緒の比較史』に掲載された。日本史や西洋史の事例と、オスマン帝国の事例を比較するための材料を提供できたのではないかと考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ・ 小笠原弘幸 「トルコ共和国公定歴史学における「過去」の再構成—高校用教科書『歴史』（1931年刊）の位置づけ—」『東洋文化』第91号、2011年、289-309頁。（査読無）
- ・ 小笠原弘幸 “The Cingizids in the Ottoman Historiography,” *Ottoman Studies in Transformation. Papers from CIEPO 18*, ed. by E. Causevic, N. Moacanin and V. Kursar, Zagreb, 2010, 865-872.（査読無）
- ・ 小笠原弘幸 「古典期オスマン帝国における正統の創造—オグズ伝承の分析から—」『史学雑誌』2009年11月、118編11号、1-35頁。（査読有）

〔学会発表〕（計3件）

- ・ 小笠原弘幸 “Osmanlı Hanedanı'nın Atası Olarak Kayı Han'ın Seçilmesi: Veraset Usulü Açısından Bir Bakış（トルコ語報告：「オスマン王家の始祖としてのカユ・ハン—王位継承

方法の観点から-)」, ” 16. Türk Tarihi Kurumu Kongresi (第 16 回トルコ歴史学大会) , Ankara, Büyük Anadolu Hotel, 21 September 2010.

- ・ 小笠原弘幸 「トルコ共和国公定歴史学におけるオスマン帝国史－歴史意識とアイデンティティの検討－」日本中東学会第 26 回年次大会 (於中央大学、2010 年 5 月 9 日) .
- ・ 小笠原弘幸 『トルコ史概要草稿』の分析：トルコ共和国公定歴史学についての一視角」第 51 日本オリエント学会 (於同志社大学、2009 年 10 月 11 日) .

[図書] (計 1 件)

- ・ 小笠原弘幸 「王家の由緒から国民の由緒へ－近代オスマン帝国におけるナショナル・ヒストリー形成の一側面－」歴史学研究会編『由緒の比較史』青木書店、2010 年、125-158 頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小笠原 弘幸 (OGASAWARA HIROYUKI)

研究者番号 : 40542626